

基本理念	取組の 具体的な方向	具体的な施策	～R6	R7	R8	R9					
基本目標Ⅰ 「みんなで生活満足度向上を目指します」	①子育ての“困った”をなくそう	(1)地域における子育て支援の充実	第1期地域福祉計画	子ども・子育て支援事業計画(第3期:令和7年～令和11年)	第2期地域福祉計画						
			○第2期の評価・第3期計画の策定 ○住用笠利における認定こども園整備推進 ○子ども・子育て“しあわせ”向上官民連携トリアル事業の実施 ○保育人材確保にむけた官民連携円卓会議	笠利認定こども園開園	住用・笠利認定こども園開園(新園舎での運営開始)	子育て世帯への支援の充実	保育環境の改善(事業化)				
			(2)親子の心とからだの健やかな成長を支える取組の推進	地域における子育て支援や見守りに取り組んでいる。	(健康あまみ21(第2次))	養育が困難な家庭や子どもの支援の充実	子ども家庭センターの設立				
			(3)支援を必要とする子どもや家庭を支える取組の推進	児童福祉・母子保健担当課・関係団体と連携し、必要な支援に取り組んでいる。	健康あまみ21(第2次) 第2期奄美市自殺対策計画	みんなが安全安心に暮らせる環境整備	市域全体の子育て環境の充実				
	(4)みんなにやさしい “子育てのしま”づくり	住居や子どもの遊び場など生活環境に様々な課題がある。	平均自立期間(健康寿命)の伸び悩み、早世が多い等の課題がある。	健康あまみ21(第2次) 第2期奄美市自殺対策計画	高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画	住民主体の健康教室・通いの場の充実	高齢者を支える地域力の向上	医療懇話会の開催/アンケート実施	医療懇話会の開催/必要な施策の検討・実施		
	②健康・医療の“不安”をなくそう	(1)市民主体の健康づくりの推進	少子高齢化に伴い、高齢者の健康と暮らしをいかにして地域で支えていくかが課題となっている。	医療機関の減少に不安を感じる住民がいるなどの課題がある。	空き家等対策計画	同計画(次期)	定住者向け住宅施策の強化	情報発信の強化			
		(2)健康を支え合う地域づくり	人口減少の傾向を緩めるためにはUターン者など定住人口を増やす必要があり各施策が実施されている。	基盤となる公共インフラの整備が進められているが、全国的な災害事例などからきめ細かい備えが求められており人口減少や高齢化等もあり防災組織等に課題が生じている。	奄美大島中長期観光戦略	同計画(次期)	航空路の維持・拡充に向けた取組	第2期本場奄美大島産地再生計画	同計画(次期)	フリーランスが最も働きやすい島化計画(次期)	短時間ワークや副業制度の研究
		(3)医療の確保	医療機関の減少に不安を感じる住民がいるなどの課題がある。	医療懇話会の開催/アンケート実施	医療懇話会の開催/必要な施策の検討・実施	奄美市地域公共交通計画	実証運行(自家用有償運行/デマンド交通)	実証を踏まえた施策			
	③身近な生活の“問題”をなくそう	(1)定住促進による活気のあるしまづくり	人口減少の傾向を緩めるためにはUターン者など定住人口を増やす必要があり各施策が実施されている。	基盤となる公共インフラの整備が進められているが、全国的な災害事例などからきめ細かい備えが求められており人口減少や高齢化等もあり防災組織等に課題が生じている。	運転手不足などの課題がある中、路線改編、実証運行、地域公共交通計画策定などに取り組んでいる。	本市及び民間サイト等による情報発信の強化	奄美大島雇用創造協議会事業構想書	同計画(次期)			
		(2)暮らしを守る防災力の向上	人口減少の傾向を緩めるためにはUターン者など定住人口を増やす必要があり各施策が実施されている。	基盤となる公共インフラの整備が進められているが、全国的な災害事例などからきめ細かい備えが求められており人口減少や高齢化等もあり防災組織等に課題が生じている。	地域防災計画	地区防災計画の作成(要支援者把握)	定期的な防災訓練の実施	まちづくり(都市再生整備計画/住生活基本計画/その他公共インフラ関係事業計画)			
		(3)持続可能な地域公共交通体系の構築	運転手不足などの課題がある中、路線改編、実証運行、地域公共交通計画策定などに取り組んでいる。	運転手不足などの課題がある中、路線改編、実証運行、地域公共交通計画策定などに取り組んでいる。	奄美市地域公共交通計画	実証運行(自家用有償運行/デマンド交通)	実証を踏まえた施策				
		(4)しまの情報発信の充実	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	「移・職・住」総合対策事業の推進	「働きやすい職場づくり」への支援	職場と就労希望者とのマッチング(若者の地元定着/潜在労働力の掘り起こし)				
基本目標Ⅱ 「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」	④しまで働く人を増やそう	(1)民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進	人材不足が深刻化しており新たな働き手の確保が急務である。	「移・職・住」総合対策事業の推進	「働きやすい職場づくり」への支援	職場と就労希望者とのマッチング(若者の地元定着/潜在労働力の掘り起こし)					
		(2)地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	奄美大島中長期観光戦略	同計画(次期)	航空路の維持・拡充に向けた取組	第2期本場奄美大島産地再生計画	同計画(次期)	フリーランスが最も働きやすい島化計画(次期)	短時間ワークや副業制度の研究	
		(3)多様な働き方の推進	一部では新たな働き方が見られるが働き方改革と潜在的労働力の掘り起こしとしては取り組みの余地がある。	一部では新たな働き方が見られるが働き方改革と潜在的労働力の掘り起こしとしては取り組みの余地がある。	フリーランスが最も働きやすい島化計画(次期)	短時間ワークや副業制度の研究					
	(4)しまの情報発信の充実	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	地域の知名度が上がる一方で、定住促進につながる情報発信については課題がある。	本市及び民間サイト等による情報発信の強化	奄美大島雇用創造協議会事業構想書	同計画(次期)					
	⑤しまの「しごと」を応援しよう	(1)「ありのままのしまの魅力」を引き出す観光関連産業の進化	地域の生活文化や自然環境との共存を図りつつ、観光産業の可能性を広げる余地がある。	地域の生活文化や自然環境との共存を図りつつ、観光産業の可能性を広げる余地がある。	エコツーリズムの推進	宇宿貝塚史跡公園リニューアル					
(2)「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進		名瀬・住用地区は果樹栽培のブランド化などに、笠利地区はサトウキビ栽培の単収と畜産の飼料コストや子牛価格に、それぞれ課題を抱えている。	名瀬・住用地区は果樹栽培のブランド化などに、笠利地区はサトウキビ栽培の単収と畜産の飼料コストや子牛価格に、それぞれ課題を抱えている。	垂熟果樹(主にタンカン)のブランド化	農業振興地域整備計画に基づく基盤整備	子牛の商品性向上及び資料自給率向上など	林業及び水産業の振興				
基本目標Ⅲ 「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」	⑥しまで学ぼう しまに学ぼう	(1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進	基礎学力の向上に加え、問題解決能力や郷土愛を備えた人材育成が課題である。	教育大綱/第2期教育振興基本計画	同計画(次期)	学びのセーフティネット(奨学金制度など)の充実					
		(2)信頼され、地域とともにある学校づくりの推進	信頼される学校、地域とともにある学校づくりが課題である。	教育大綱/第2期教育振興基本計画	同計画(次期)						
		(3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進	地域を誇りに思い守り続けたいと気持ちを持つ子どもを育てることが課題である。	教育大綱/第2期教育振興基本計画	同計画(次期)						
		(4)生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興	生涯学習、伝統文化、芸術、スポーツに親しむ環境づくりが課題である。	生涯学習、伝統文化、芸術、スポーツに親しむ環境づくりが課題である。							
	⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう	(1)世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ	自然環境の保全と地域社会が共存できる仕組みづくりや人材育成が課題である。	自然環境の保全と地域社会が共存できる仕組みづくりや人材育成が課題である。	奄美大島生物多様性地域戦略	パトロール・水際対策	観察ルール	啓発活動など			
		(2)世界自然遺産にふさわしい 持続可能なしまづくり	脱炭素への取組や地域循環共生圏の構築や自然の適正利用が課題である。	脱炭素への取組や地域循環共生圏の構築や自然の適正利用が課題である。	一般廃棄物処理基本計画(同実施計画・分別収集計画・災害廃棄物処理計画) ※R7見直し	地球温暖化防止活動実行計画(事務事業編/区域施策編)					
⑧みんなで「しまさばくり」をしよう	(1)集落や地域活動の活性化による地域づくり	リーダー人材の育成を含めた住民主体の課題解決や地域活性化が課題である。	リーダー人材の育成を含めた住民主体の課題解決や地域活性化が課題である。	自治会及び集落活動への参加(支援)	奄美会(出身者)との交流促進						
	(2)マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築	持続可能な地域の未来に向けて、多様な主体による連携が課題である。	持続可能な地域の未来に向けて、多様な主体による連携が課題である。	SDGs推進プラットフォーム/PPPプラットフォーム/高校みらいコンソーシアム							
	(3)男女共同参画社会の形成の推進	ジェンダー平等の実現による就労拡大など地域活力の活性化が課題である。	ジェンダー平等の実現による就労拡大など地域活力の活性化が課題である。	男女共同参画基本計画							
	(4)大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元	大学など高等教育機関との連携による関係人口増や研究成果の還元が課題である。	大学など高等教育機関との連携による関係人口増や研究成果の還元が課題である。	大学等との連携	奄美看護福祉専門学校への支援						
	(5)奄美大島共同キャンパスの具体化	大学等設立可能性調査有識者会議によって提唱された共同キャンパスの具体化が課題。	大学等設立可能性調査有識者会議によって提唱された共同キャンパスの具体化が課題。	大学等との協定の推進	大学等との連携のあり方の検討						
	(6)公共施設の再編と活用	一人当たりの公共施設面積が県下19市で最も多く、将来的な適正化が課題である。	一人当たりの公共施設面積が県下19市で最も多く、将来的な適正化が課題である。	公共施設等総合管理計画の推進強化	民間提案制度の推進						